

図 2:世界基金の 4 段階の測定区分

上から:「現れる効果」、「システムの効果」、「助成の効果」、「運営の効果」
 枠囲い:「世界基金の貢献」

4 つのレベルの測定区分(上部図2参照)は下記の通りである。

1. **運営の効果**:このレベルは資源の流通、助成の運営、申請案件と助成の契約、助成金の支払い、事務局の経費を含んだ世界基金とその事務局の中心的な機能の効果を測定する。2004 年にはこれらの領域の重要な効果指標が「管理用ポータル」と呼ばれる新しい運営ツールの中で示されるようになった。加えて、世界基金の基本的構造は様々な要素を含んでおり、より詳細に個別の領域を評価するために、それに特化した評価の調査が行われている。

2. **助成の効果**:このレベルは助成の効果を測定し、世界基金による効果に基づいた助成の土台となるものである。そのシステムは2004年に定義付けされたあと実施され、申請案件の進行、助成の承認、定期的な助成の支払い、第二次助成の評価などの、世界基金の助成過程のあらゆる面をカバーする。最初の技術的パートナーと共に、世界基金はモニタリングと評価(M&E)のツールキットを開発した。これは簡便化された評価区分と三大感染症のあらゆる段階の指標を持つという特徴がある。そのツールキットは目的のターゲットの効果を測定するために、世界的に受け入れられるターゲットと指標を設定し、世界基金の助成適用の際の申請者を支援する目的で製作された。このツールキットを使用することで、過程よりもむしろ結果に焦点を当てることで、申請者は助成を受けるための企画をより簡単に作成することができるようになる。初期の助成の承認は、弱い効果

を示す指標を含んでいたり、完全な助成効果システムが配備される前の状況下で行われていたりしたので、効果の指標を向上させるために大変な苦労があった。これを改善する努力は 2005 年も継続中である。

3. **システムの効果**:このレベルは世界基金が現在あるシステムを使用して特に国レベルで仕事を進める上で生じる影響(良い意味も悪い意味も含む)を測定する。2004 年には技術評価小委員会(TERG)、監視と評価、会計、監査に関する委員会(MEFA)の監視のもと、広い範囲のパートナーと関係者が共同で、追加資源、長期間継続する努力、国別調整機構のガイダンスのもとでの国の提携、技術団体と援助団体との間の調和に焦点を当て、その効果を測定するための指標と測定ツール一式を開発した。これらの指標の測定は 2005 年に優先的に行われる。

4. **現れる効果**:このレベルは三大感染症の進行を回避するための対策における世界基金の効果を測定する方法を提供する。世界基金が資金提供するプログラムの成功は三大感染症の最終的な効果であるので、その効果を測定するための指標は助成運営システムの一部として開発された。基本的指標はモニタリングと評価のツールキットの中に含まれているが、助成運営システムの中に完全に組み込めるように、2005 年の優先度は高くなるだろう。初めのステップは、第二次助成段階に達した際に全ての助成延長の評価の対象となる**効果¹**の指標(と普及率¹の指標)を作製することである。

¹ 2005 年 3 月 9 日、国連合同エイズ計画(UNAIDS)とイギリス、フランス、アメリカの各政府は、協調して目標を達成するため、今後の前進を提案する高官レベルの会議のために集まる予定である。

運営の効果:

測定区分のレベル1

27. 事務局は助成受領者が要求する基本原則と同じ効果の基本原則のもとで運営する。世界基金の運営の効果の測定は、あらかじめ決められたターゲットに対して正式な一連の効果指標の測定を通して、そして定期的な調査と内部、外部の両方で実施される監査を通して実施される。

管理用ポータル

28. 管理用ポータル(下図4参照)は重要な効果運営情報を提供する共通化された報告ツールであり、上層部の意思決定に重要な意義を持つ。5つの中心的な過程(資源の流通、申請案件の事務処理、助成の折衝、助成の支払いと運営、ビジネスサービス)を評価しながら世界基金の運営の効果の見やすい概要を提供する。2004年には事務局がこれら5項目の指標を設定した。

29. 重要な各過程は一つのトップレベル表示を持ち、進行状況を示したスナップ写真を提供し、より詳細な情報を閲覧するために5~6の支援表示がある。5つの重要な過程のトップレベル表示は下記の通りである。

1. 資源の流通: 契約に照らした資源の分配と、資源の流通を目的とした国内のターゲットの状況
2. 申請案件の事務処理: 助成を承認した総数の割合で示した契約した助成数
3. 助成の折衝: 申請案件にかかった平均時間(申請されてから助成契約するまで)
4. 助成の支払いと運営: 合計支払いに対する現在の支払い状況
5. ビジネスサービス: 合計の費用に対する運営と事務局の経費

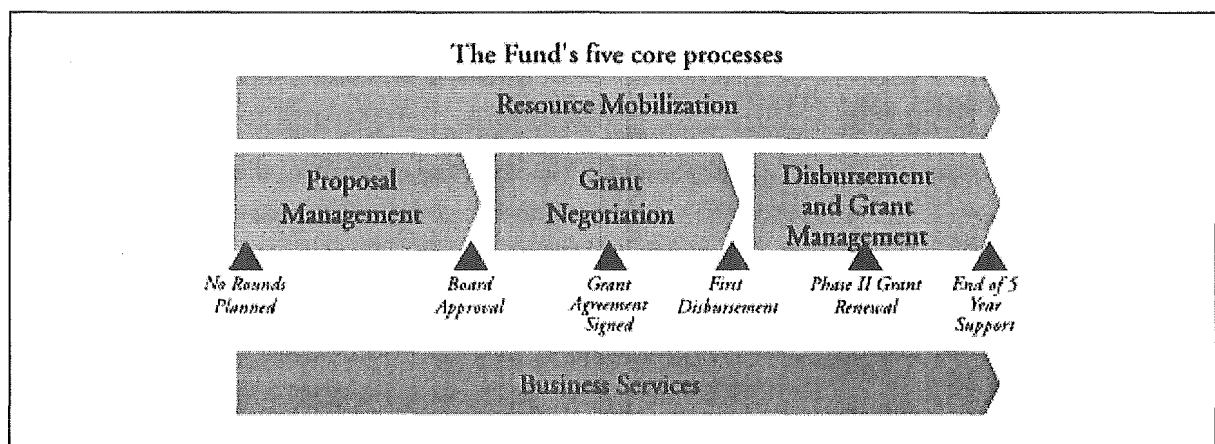


図3: 世界基金の5つの重要な運営上の過程

最上部: 基金の5つの重要な過程

上部: 資源の流通

中左→右:

「申請案件の事務処理」「助成の折衝」「助成金の支払いと運営」

下左→右:

「計画前」「事務局承認」「助成契約」「最初の支払い」「第二次助成更改」「5年援助の終了」

最下部: ビジネスサービス

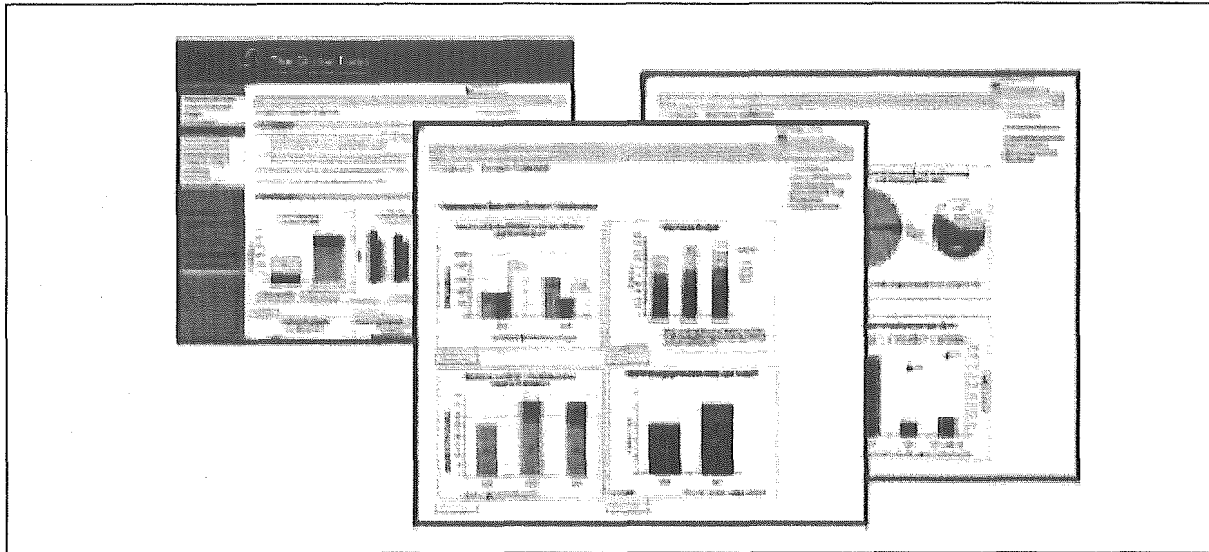


図4:管理用ポータル画面の一部

30. 管理用ポータルは2005年の3月に運営ツールとして完全に実施される。毎月更新され、世界基金のウェブサイトにアクセスできる。

31. 2004年11月に理事会は常任理事のために一連の効果測定指標を承認した。これらは管理用ポータルに収められ、2005年に報告される(別表3参照)。

運営の効果を測定する他の領域

現地監査機関

32. 世界基金をジュネーブの外に存在させないかわりに、現地監査機関(LFA)を必要な時に商業的に雇うことによってサービスを買うという決定は、世界基金の構造の中で最も革新的な要素である。LFA方式の背後にある考えは他に類を見ないわけではないが、他の主な資金提供機構は、世界基金のLFAシステムのような外部評価と、検査様式と規模をこれまで利用することはなかった。LFAは、候補に挙げた資金受入責任機関(PR)の助成金を管理するための能力を評価し、基金

プログラムの実施、会計報告、プログラムの進行具合を評価し、世界基金の方針と合う生産を行うかどうかを確かめることを事務局と契約している。また、LFAはPRの定期的な支払い要求、進行具合の報告、現在の会計検査報告を調査し、事務局に助成金プログラムの実施に関して助言を行う。

33. 現地監査機関は世界的な競争入札を通して選択される。この報告の時点で、7つの団体が現地監査機関として契約しており(下図5のLFAマップ参照)、その中でPricewaterhouseCoopers、KPMG、Deloitte Emerging Marketsが最も良く依頼されている3団体である。

34. 特に、個々の現地監査機関に対する効果、利点、欠点の徹底的な第三機関の監査と、一般的な外注の監視システムが、事務局によって委託され、2004年に実行された。その監査は現地監査機関の効果における13の徹底的なケーススタディと、独立した全体的な効果報告と、現地監査機関としての契約と臨時取り決め金額に見合う価値があるかどうかの報告を含んでいる。

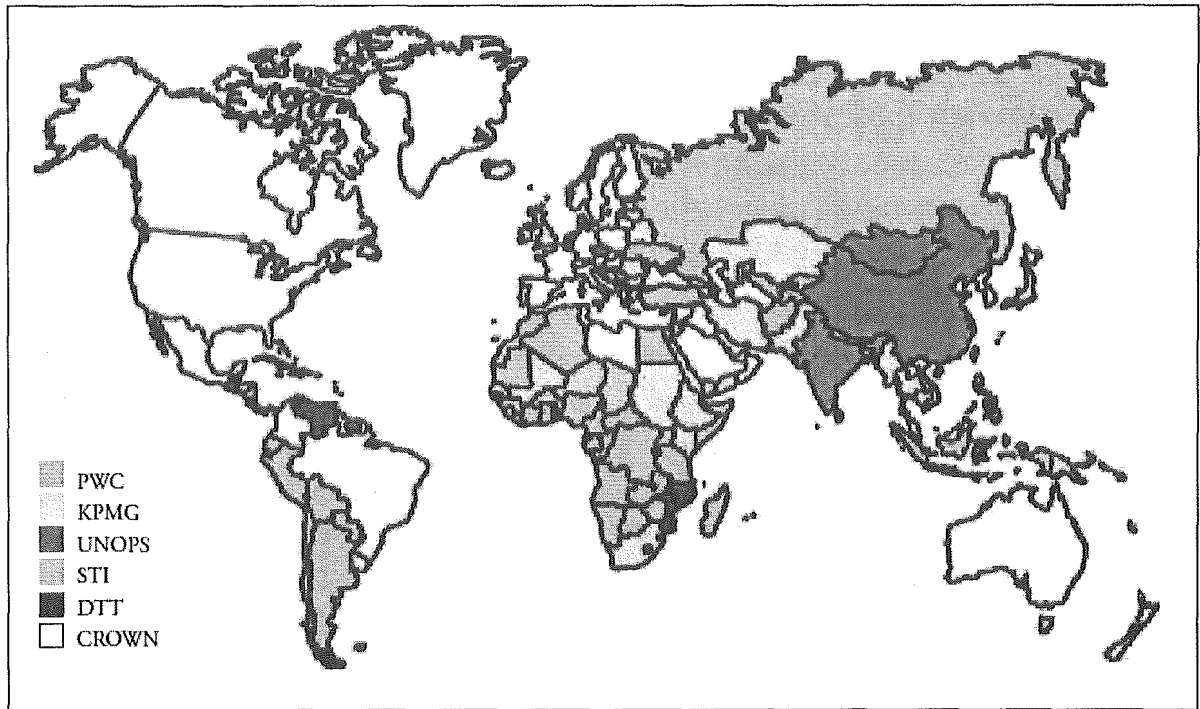


図 5:各現地監査機関の貢献

助成の効果:

測定区分のレベル 2

36. 過去 1 年で世界基金は透明性があり、正確で、一貫した効果測定システムをその助成のために作製してきた。各助成の契約は世界基金が提示する目標の中核をなすような明確な効果指標とターゲットが設定される。資金提供された診療と承認された申請案件の種類によって、どの疾病がターゲットにされるかが決定され、それに合わせてこれらの指標が大きく変わってくる。そして指標は予防、診察、ケア、治療といったいくつかの、あるいは多くの異なった要素を含んでいる。

37. 助成受領者の年 4 回の助成金支払い請求には、受領者のターゲットの進行度について外部検証された報告が含まれている。追加の助成金支払いは、四半期間にターゲットに向けて活動する限り、世界基金から助成金受領者に向かって常に受け渡される。

38. 助成は原則として理事会によって 5 年まで承認されるが、助成契約は最初の 2 年間のみだけ結ばれる。残りの助成期間の資金提供—第二次資金提供—の継続は初めの 2 年間のにわたるプログラムの効果に依存する。各助成の最初の 2

年の資金提供期間の終わり頃に、助成の効果における独立の検査と評価データを元にこれまでの助成結果をすべて連結し、「助成得点表」が世界基金によって作成され、理事会によって第二次資金提供の決定がなされるための基本データとなる。

39. 世界基金は、技術パートナーと共同で助成の運用と、効果を基にした資金提供決定を容易にするためのツールを開発した。達成状況は、助成契約に含まれる内容や事務局による最初の助成の申請案件、折衝、承認から得られるターゲットと、その明確な指標セットを用いることによって示されるが、これらのツールは関連したターゲットに対する効果やその達成状況を探知する。これらの指標は過程のいかなる地点からでも探知される。例えば、通常の助成支払い請求を通じた助成契約、継続した資金提供の請求、第二次資金を受領するための助成契約の延長請求などを通じた効果の更新から、データを得ることができる。助成が 18 ヶ月目に達する時、全ての効果に関係した情報は「助成効果報告」で報告される。

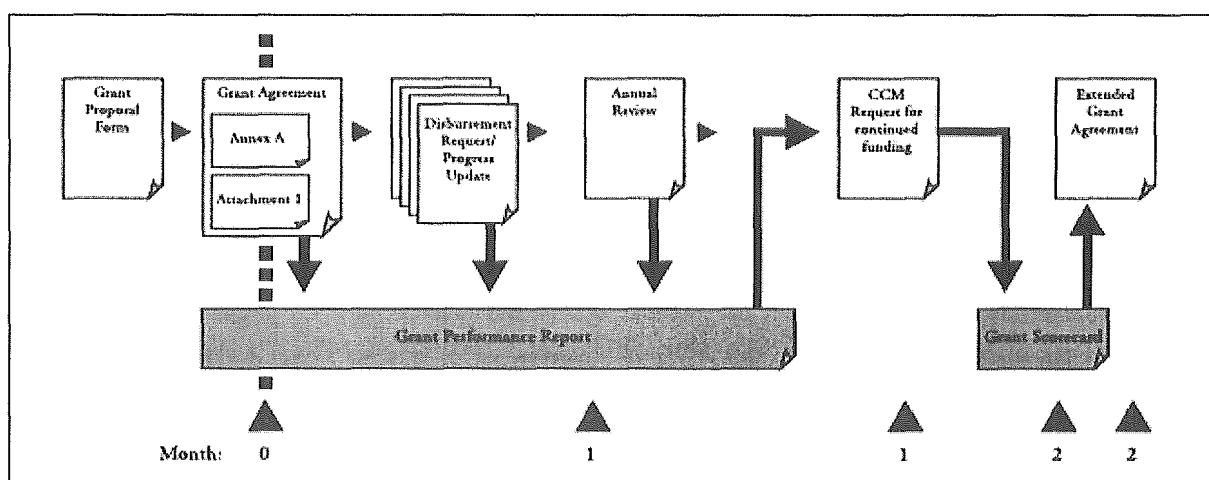


図 6: 世界基金の助成効果測定システム

上部左から(書類図): 「助成申請フォーム」、「助成契約」、「追加書類 A」、「添付書類 1」、
「助成支払い請求/進行状況更新」、「年次監査」、「国別調整機構」、
「継続資金供与要請」、「延長助成契約」
下部左から: 「助成効果報告」、「助成得点表」

40. 完全な効果測定システムは2004年に導入され、初めの27件の第二次資金提供の推薦が2005年2月1日に事務局によって理事会に対して行われた。一連の明確な効果指標を基にした徹底的な評価を行わないで第二次基金を受け取る助成はなく、そのような効果指標のない状態で契約を行う助成はない。

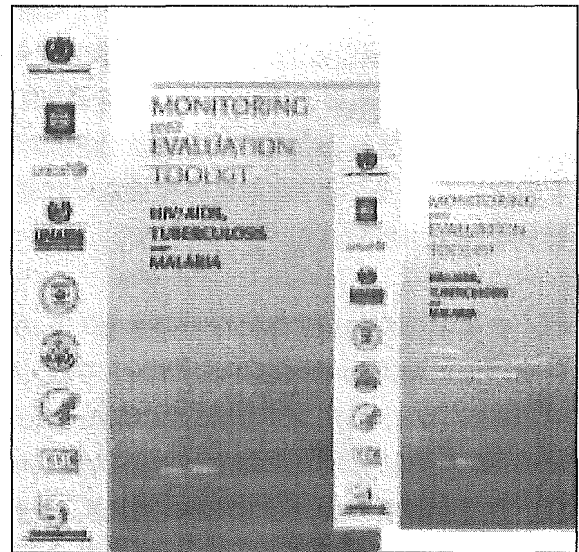
41. 資金提供を始める際には緊急を要したので、世界基金は初期の申請案件ではガイドラインに、指標とターゲットの基準を設置していなかった。そのため、現在第二次過程にあるほとんどの助成は、最初は助成の中心的活动と調和した統一された定量ターゲットがなかった。第一期や第二期募集で承認された助成における多くのターゲットは、より多くの人々がサービスを楽しむようなプログラムの達成よりも、その過程に重点が置かれていた。また、多くの助成では信頼性のある基準データが失われていた。

42. 過去一年で重要なターゲットを含んだ初期の助成システムを新しいものに入れ替え、基準データを作成するのは大変な努力が必要であった。それにも関わらず、最も初期の世界基金の助成時に契約した第二次助成の評価は、第三期の助成審査の場合よりも、資金提供されたプログラムの実現可能性、将来的な潜在性において、より大きい度合いの質的な判断を含むだろう。指標とターゲットの透明度は現在改良され、年4回の、あるいは6ヶ月ごとの実績報告が設定されたので、助成の運営はより客観性があり、より簡便に評価できるものになってきた。

統一した指標の発達

世界基金は基金を受ける国、他の基金、技術的な団体とともに効果測定のための「文化」を築くために密接に連携しあひながら活動している。その開始に役立った世界基金の一つの重要な成果は 2004 年に投入された HIV/エイズ、結核、マラリアのための「モニタリングと評価のツールキット」であった。そのツールキットは初めに HIV/エイズ、結核、マラリアにおける報告を最小限の世界的な指標で共通の意見を交わすため、非常に広い範囲の国際的パートナー（疾病対策予防センター、アメリカ国防省、アメリカ厚生省、世界基金、国連共同エイズ計画(UNAIDS)、ユニセフ(国連児童基金:UNICEF)、米国際開発庁(USAID)、世界保健機構(WHO)、世界銀行) 同士を団結させた。これは三大感染症への対象範囲が広く、測定する要素は非常に多く、多彩で、そのために多数の潜在的指標が存在するので、統一した指標が存在することは重要である。

ツールキットは共通の指標を用いた報告に貢献することにより、多数の援助者が受益国に報告する困難さを簡便化するのに役立っており、共通の指標セットが国のいたるところにある診療の診断材料として使用されることを保証している。これは国レベルで一致したデータをもたらし、最終的には測定可能な世界的な進行状況を示すことに貢献する。モニタリングと評価システムの困難さは多くの国で未だ残っており、今後数年間、ドナーと技術パートナーの援助は重要な意味を持ち続けるだろう。



ツールキットの誕生後、2004 年 8 月に世界基金を含んだ関係した全パートナーの現地スタッフの統合訓練が行われた。地域の訓練は続いており、2005 年も引き続いて続いて行われるだろう。こういった発達は一致したモニタリングと評価が国と国際的なレベルでのパートナー間で承認されることが重要であった。ツールキットはその普及率(サービスを受けることができる人々、援助される対象、訓練される人々)に焦点を当てることで援助者への報告を簡便化する狙いがある。

ツールキットは世界基金の助成の適用者が、世界的に認められた効果指標を適用することを支援し、申請案件が過程ではなく結果に重点を当てられることに役立つ。これは助成契約のためのターゲットと指標の承認、進行状況の測定、助成適用の評価といった過程を簡便化する。

システムの効果:

測定区分のレベル 3

43. システムの効果の測定は世界基金が特に受益国レベルでその活動を通じたシステムの存在による影響を、良い意味でも悪い意味でも測定することを意味する。2004 年に技術評価小委員会 (TEEG)、監視と評価、会計、監査に関する委員会 (MEFA) の監視のもと、その効果を測定する目的で、一連のパートナーや関係者が共同で中心的な指標と測定ツールを開発した。特に、追加資源、長期間継続する努力、技術団体と援助団体間の調和に焦点が当てられた。これらの指標の測定は 2005 年に優先的に行われる。追加的に、国別調整機構 (CCM) の指導のもとで、国と国が協力していくことに焦点を当てる。国別調整機構の機能レベルと組織の基準調査は現在 120 の国別調整機構で進行中であり、2005 年 6 月にその結果が予想される。

44. 追加的、継続的、統一的に中心的指標として選ばれた多くの測定は、世界基金のパートナーによって行われた最近の活動と調査に基づいており、その情報は資金提供された国の多くで正式に利用できない。結果として、この領域で開発された測定システムは、資金提供された国のパートナーや関係者による将来的な測定活動のための指導要綱として使用される。世界基金は世界保健機構 (WHO)、国連共同エイズ計画 (UNAIDS)、経済協力開発機構 (OECD) といった重要な技術提携機関とともに、できる限り多くの国でこれらの指標のための基準を設定するために活動している。2005 年 12 月の会議で世界基金の理事会に完全な報告が提出される予定である。技術評価小委員会 (TERG) からの協力とともに、事務局は、2005 年 9 月の第二回補充会議の前に、検査用の暫定報告の準備を行っている。

国別調整機構(CCM)の役割

国別調整機構は国レベルの過程との調和、三大感染症に係るパートナーシップ、受益国におけるより広い医療制度などへの影響の点から見て、2005年にさらに厳密に調査される世界基金の構成要素の一つと言える。国別調整機構は受益国において広い関与と連携を達成するための世界基金の主な機構の一つである。国別調整機構から助成申請の提出を要求することにより、世界基金は広い範囲に及ぶ影響の過程を触媒してきた。多くの国で、以前は社会的に無視されてきたグループ、特にエイズと共に生きる人々の代表者といったグループを正当化してきた。こういった多くのグループや、多くの非政府組織、宗教系組織などにとって、国別調整機構の存在によって、医療問題に対して国の意思決定や優先順位の設定に対して意見を述べる最初の機会が生まれた。また、国別調整機構は資金提供を受ける国において国際的なパートナーがうまく機能するような触媒的な役割を持っており、これは外部の技術や他の援助の調和のために必要不可欠である。

しかしながら多くの国で、国別調整機構のモデルは概念だけが先行し、望んだようには機能していない。国別調整機構がかかえるいくつかの問題は、旅費の問題、言葉の壁、支援団体の欠如、乏しい運営資金といった実行制限によるものであり、その全ては国別調整機構の円滑な運営を妨げている。他に、いくつかの政府は非政府組織が政策決定の過程や機能の監視に関わることに意欲的ではなく、他分野の参加を減少した。加えて、多くの国では、医療計画や連携のための他の討論会に対する国別調整機構の役割は、国別調整機構が国連共同エイズ計画(UNAIDS)の基本原則である「三つの統一」と連携するために明確化される必要がある。「三つの統一」: (1)すべてのパートナーの活動と連携するための基盤となる合意された一つのHIV/エイズ対策の枠組み、(2)広範な分野に権限が及ぶ一つの全国的なエイズ対策連携機関、(3)合意に基づく国レベルのモニタリングと評価のシステム。国別調整機構は他の適切な意思決定団体を受け入れるために十分に柔軟性がある機構である。国別調整機構の改良は世界基金の最も中心的で優先度の高いものである。

多くの国の国別調整機構は改革の必要があるにも関わらず、その批判は世界基金の構造や過程の土台となるものの解体を支持するものではない。国別調整機構は多くの先進国の医療分野に一步前進するために、さらなる包括性と他分野協力を必要としていた。

過去18ヶ月で、世界基金の事務局は17の国の事例調査に基づいた経験の浅い国別調整機構の包括的な分析をし始め、さらに4つの国で国別調整機構の徹底的な追跡調査、国別調整機構に非政府組織(NGO)が関与した2カ国間の調査、世界HIV感染者/エイズ患者(PLWHA)が関与した多国間調査、民間部門の参加の国際労働機関(ILO)検査、世界基金の過程に宗教系組織が融合した2つの調査、2004年7月に開かれた事務局のスタッフと世界基金の提携者討論会である地域会議からのフィードバックなどが行われた。

2004年11月にこの分析の結果から、国別調整機関に、構成員、代表者、過程などの領域を盛り込んだ修正要求・提案を行うことが理事会で承認された(「国の連携機構の目的、構造、構成における新しいガイドライン」参照)。その他の分析結果は2005年に、全ての国別調整機関構成員を含むように世界基金の国別調整機関連絡用のメーリングリストを拡張するため、そしてプロジェクト運営と基本的なビジネススキルといった弱点領域における能力を向上するために行われた一連のワークショップで発表された。

システムの効果を測定する技術の発達の一部として、世界基金は簡便な国別調整機関チェックリストを開発した(別表2参照)。これは年間の国別調整機関の構成と機能の自己評価のためのツールとして、また標準監査の基準のサンプルとして使用する。世界基金は2005年6月までにすべての国別調整機構で基準データの作成のために調査を開始する。2005年1月に開始した試験段階の結果は、2005年3月に技術評価小委員会(TEFG)と監視と評価、会計、監査に関する委員会(MEFA)に提出する。

現れる効果

測定区分のレベル 4

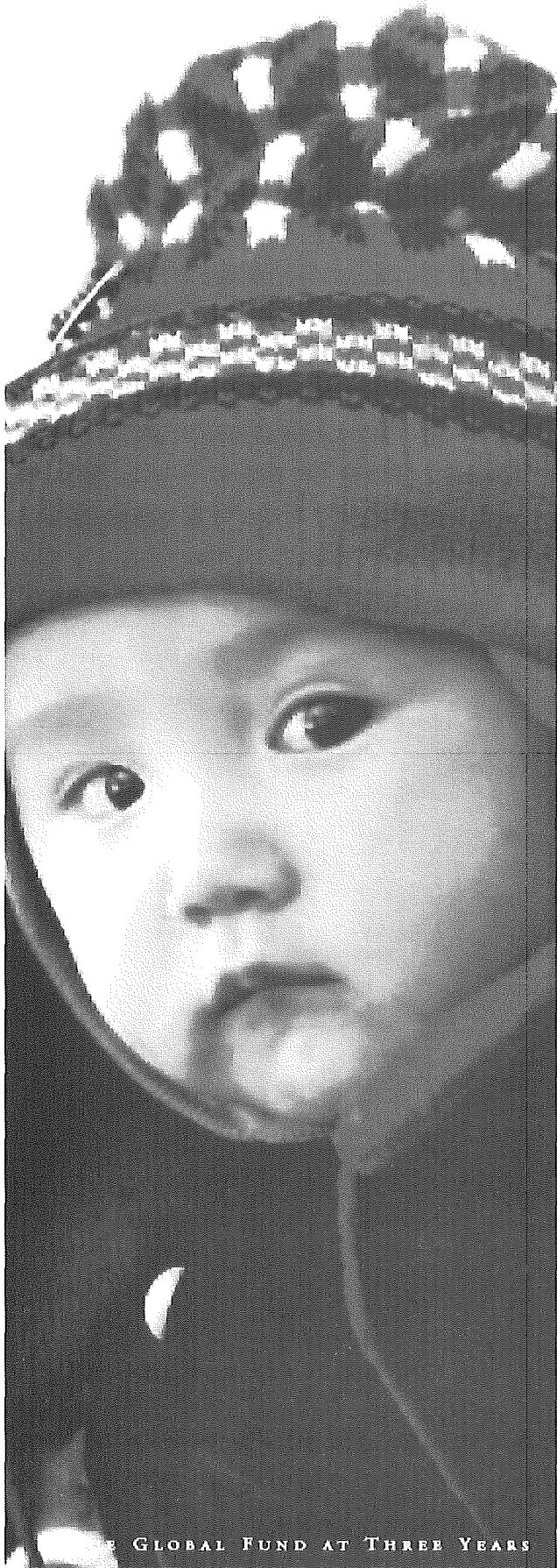
45. 最終的に現場に現れる効果はもちろん最も重要なものである。世界基金は三大感染症の広がりを抑えるためにプロジェクトの停止や開始を行う準備が整っており、プロジェクトが成功する範囲を評価しなければならない。しかしながら、感染症の比率と助かる命に対する効果の結果を出すには 20 ヶ月以上の相当な期間の測定が必要であり、世界基金のどのような助成も本報告が書かれるときには実施している最中であり、全体の助成のうち平均してあと 11 ヶ月は結果が出ないだろう。そのため、本報告は広く運営の効果、助成の効果、これまでの世界基金の活動で得た広い範囲での（あるいは間接的な）システムの効果の初期兆候に焦点を当てる。

46. 各助成において、既に明確に現れる効果がわかっているターゲットは、対象範囲の指標が全体的に見た効果の到達地点や、助成を受けたプログラムと国の目的にかなったものであるかどうかを確かめる上で重要な要素である。資金供与

されたプログラムの効果を測定することは、資金供与機関である世界基金の影響を知る上でとても重要である。普及率の指標（例えば人々が診療を受けるに至った数、診療拠点の数など）に加えて、現れる効果の指標は「モニタリングと評価のツールキット」に含まれており、このキットは使用者に広範囲にわたる測定指標のための共通の資料集を提供する。2005 年の助成運営の重要な要素の一つは、助成契約を判断する上で、案件がいかに関「現れる効果」の指標を持つかである。すでに第五期助成申請案件フォームでは明確なゴール（ターゲットの効果）と測定方法に関する比重が高められている。初期の助成は第二次助成へと移行し始めているので、助成継続契約の申請ではターゲットの効果と指標を盛り込むことを要求しており、2005 年 2 月に承認された第二次助成契約の一部がスタートする。

Global Fund results to date





これまでの世界基金の結果

この章ではこれまでの世界基金の運営と助成の効果について報告する。ここでは運営と助成の効果を評価するための世界基金の測定システムを説明するため、前章の「効果の測定」から章を変える。

需要主導の各助成プログラム

47. 世界基金は助成適用の募集期間に助成をしてきた。これまで4回の募集期間が承認され、5回目の計画も既に立ち上げられ、2005年9月に11回目の理事会で承認される予定である。

48. これまでの4回の募集を通して、世界基金は127の国、310件のプログラムに対して2年間で総額31億ドルを超える助成の承認を行ってきた。4回の案件募集は2002年4月、2003年1月と8月、2004年6月に承認された。わずかな例外を除いて、こういった助成を受ける対象国は今現在疾病に苦しんでいる国か、将来的に急速な伝染病の広がりをみせる可能性のある国である。3分の2近くの国が世界銀行によって途上国と分類されているが、残りの3分の1の国は疾病の苦しみが深刻であるか、高い感染症の伸び率を示す中流国である。3%の助成は疾病の苦しみが深い、あるいは感染症の伸び率²の高い、比較的収入の高い10カ国に対して行われている。

49. 申請案件の技術的品質以外に助成承認の基準がない事実にも関わらず、4回の募集では同じ助成の配分傾向にある。承認された助成の60%はサハラ以南のアフリカに行われ、23%はアジア、中東、北アフリカ、残りの17%は中南米各国、カリブ、東ヨーロッパに振り分けられている。56%ほどの助成は HIV/エイズ対策に行われ、31%がマラリア、13%が結核プログラムにそれぞれ割り当てられている。

50. 世界基金の受領パートナーは国レベルの対応が必要で、その大きさを反映して、主要な受領者の半分は政府機関であり、4分の1が非政府組織、そして残りの4分の1が宗教系組織、民間企業、研究機関、疾病に苦しむコミュニティである。

51. 過去数年間の医療に対する支援の発達における主な変化の一つは、時間制限なく薬剤や物資を提供する必要があるとドナーが承認したことである。これは、こういった製品—抗レトロウイルス製剤や他の薬剤、コンドーム、診療に用いる医療道具、防虫剤含浸蚊帳など—の使用を大幅に拡大にする必要性が明らかとなり、また、先進国が短期、中期的に大量の物資を購入するための全費用を捻出することが難しいことが明らかとなったからである。世界基金はこれらの購入費用の一部を提供し、約50%の契約助成金が薬剤や他の物資の購入に充てられている。他の助成金はインフラ設備や医療従事者や他の援助人員の訓練の拡充に使われている。

² 現在世界基金の助成を受けている比較的收入の高い10カ国：アルゼンチン、ベリーズ、ボツワナ、チリ、コスタリカ、クロアチア、エストニア、ガボン、パナマ。将来の基金の契約のために設定されたより厳しい適格基準に基づき、ボツワナとガボンだけが将来の基金対象となるだろう。

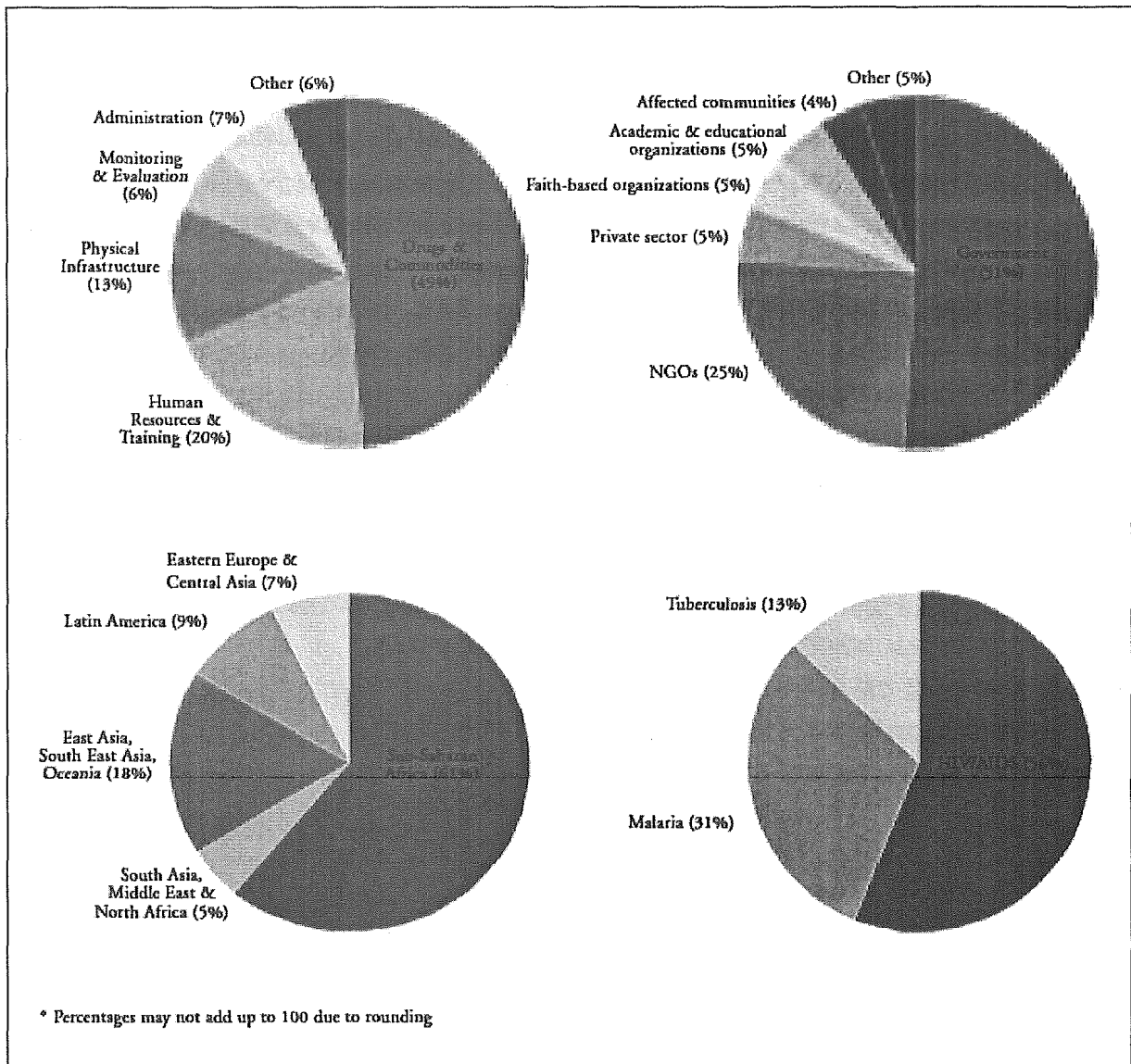


図 7: 世界基金の助成の支出種類別、受益者のセクター別、地域別、疾病別の内訳

左上図、赤から時計回り:

「薬剤と物資(49%)」、「人材と訓練(20%)」、「物的インフラ設備(13%)」、「モニタリングと評価(6%)」、「管理(7%)」、「その他(6%)」

右上図、赤から時計周り:

「政府機関(51%)」、「NGO(25%)」、「企業(5%)」、「宗教組織(5%)」、「研究教育機関(5%)」、「感染者コミュニティ(4%)」、「その他(5%)」

左下図、赤から時計周り:

「サハラ以南アフリカ(61%)」、「南アジア、中東、北アフリカ(5%)」、「東アジア、東南アジア、オセアニア(18%)」、「中南米(9%)」、「東ヨーロッパ、中央アジア(7%)」

右下図、赤から時計回り:

「HIV/エイズ(56%)」、「マラリア(31%)」、「結核(13%)」

左最下段文章:

*円グラフによって全てを合計して 100%にならない場合がある。

52. 世界基金は三大感染症に対する対策に取り組んでいるが、受益国の中での全体的な医療配送システムを強化することを目的として設計され、運営している。世界基金は可能な限り、一般的な保健医療サービスとの一体化と相互作用の必要性、重複サービスの回避の重要性、保険医療分野での「縦割り型」組織からの脱却に重点を置いている。多くの国—特にサハラ以南アフリカ—で、HIV/エイズ、HIV/エイズとの日和見感染としての結核、マラリアは既存の保健医療サービスにとって計り知れない重荷となっている。三大感染症に対処するための保健医療システム能力の重点化は全体的な医療システムの効果を大幅に改善するだろう。

53. 現在、ほとんどの助成は、近い将来、より多くの人々にサービスを提供する能力を築き上げる初期段階にある。2004 年末で世界基金の助成の平均期間は 11 ヶ月である。各助成プログラムを見ると、57%の助成は最初の 2 年間の半分に満たない助成金しか使っておらず、26%助成は 50

～70%、そしてたった 16%の助成だけが 2 年間に受けた助成金の 75～100%を使っていた。この支出率はほぼ助成を受けてきた期間と一致する。下記は助成の効果と世界基金の運営の両方が初めの予想通りかどうか、3 年目に入る世界基金の現状、27 件の初めの助成が助成期間のうちの 2 年を終えようとしている状態について示すために行った世界基金の各助成プログラムの分析結果である。

運営の効果—結果

54. 上記の通り、世界基金は 5つの過程(資源の流通、申請案件の事務処理、助成の折衝、助成の支払いと運営、ビジネスサービス)に関係した指標とターゲットに対する運営の効果を測定した。各領域の 2005 年 1 月末現在の結果は下図に示した通りである。

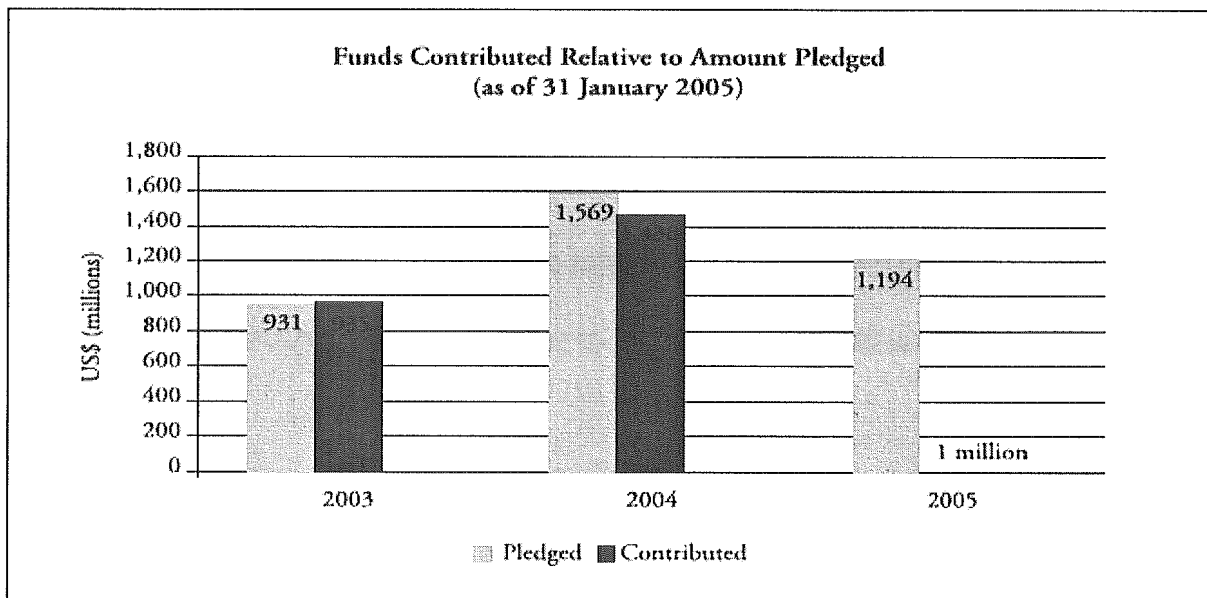


図 8: ドナーの公約、世界基金のターゲットと比較したドナーの貢献

上部: 公約した合計額と比較した基金の貢献額(2005 年 1 月現在)

縦軸: 米ドル(百万)

2005 年、図内: 100 万

「肌色: 公約額」「赤色: 貢献額」

資源の流通

55. 2004年に、5つの政府によって新しい公約が誓われ、13の政府とその他によって追加的公約が誓われた。この結果、2004年の総公約額は15億6900万ドルとなった。

56. 2005年1月31日現在、世界基金は14億3800万ドルを支払い、これはなされた公約に比べてやや少ない。2005年1月31日現在、2件の支払い延滞分が支払われている最中で、この2件は管理上の理由により遅延した。

ビジネスサービス

57. 世界基金にとって重要な事柄は、運営上無駄の無い人員数を維持することである。スイスのジェノヴァの事務所以外に世界基金は存在せず、時間制限のある任務を実行するためにコンサルタントをフル活用し、新しい運用方法や政策を展開している。例えば、現地監査機関(LFA)は資金供与国におけるその助成効果を検証するために契約している。

58. 世界基金の運営費は事務局、理事会、技術審査パネルの支出からなり、受益国における世界基金の助成の監査のために現地監査機関に料金を支払った。この運営諸経費の効率を測定するために使われる指標の一つは、総支出に対する運営費の比率である。合計支出は助成支出一年間に契約した助成の合計支出—と運営費の両方を反映している(下図9参照)。この一年間で世界基金の各助成プログラムの規模は大幅に大きくなり、合計支出に対する比率は減少すると推測され、2006年の終わりまでに2%よりも低い値になるだろう。

59. 世界基金は民間団体から無料の幅広い多大な援助を受けてきた(下図10参照)。2004年に1000万ドル相当を超えるこういった貢献は、コンサルティングサービスから広告、市場販売援助に至るまで、そしてスタッフの派遣から著名人の支援に至るまで幅広い。世界基金に対する無料サービスの提供は民間団体が世界基金を支持する姿勢を示す重要な手段になってきており、2005年も引き続き多くのサービスが提供されるだろう。

支出の分野	2004年総支出額(百万ドル)	2004年総支出額の割合
助成	878.0	95.4%
現地監査機関	13.8	1.5%
事務局	26.4	2.9%
理事会と技術審査パネル	2.3	0.2%

図9: 2004年の合計支出に対する事務局の経費の比率

提供者の名前	無料で受けた物品/サービスの簡単な説明
Booz Allen Hamilton	審査委員会の組織化
著名人: India Arie	VH1 ^(注) 共同のアフリカでのドキュメンタリー番組制作における時間的、創作的貢献
著名人: Rupert Everett	アジアでのドキュメンタリー番組制作における時間的、創作的貢献
著名人: Emma Thompson	世界基金のビデオ(ヨーロッパ版)のナレーターとして貢献
McKinsey	常任理事の評価基準の整備
Piper Rudnick	2005年とその後の世界基金のリスク管理システムを開発するための様々な課題に対する法律的な助言とスタッフの養成
Publicis Group とメディアパートナー	フランスで世界基金の広告キャンペーンの広告サービスと放送時間/活字印刷の調整
Sidley, Austin, Brown & Wood	世界基金の名前の登録と国際的なロゴにおける法的な助言と予備作業
Sterling Group	対外ポジションに磨きをかけるためのマーケティング戦略のコンサルティングサービスと基金がターゲットとなる人々とより良い情報伝達を行うための援助
The Bill and Melinda Gates Foundation	パートナーシップフォーラムを組織するためのファミリー・ヘルス・インターナショナル(FHI)から Al Nimocks の派遣経費
UN Foundation	世界基金の消費者ウェブサイト開発のスポンサー
UN Foundation	世界基金に対する個人援助者の出資、パートナーシップを推進する専任スタッフ、世界基金の資源などの管理
Viacom (VH1) ^(注)	世界基金の広告キャンペーンでの広告サービスと放送時間の調整

^(注)アメリカの放送局

図 10: 2004 年の民間セクターによる無料サービスの寄与

60. 無駄の無い事務局という方針はこれまで通り継続していくが、世界基金は効率的に助成を運営するため、スタッフの規模は適切な大きさ保つように常に調整している。経験的に、事務局の能力が低すぎると、助成運営の低下を示し、リスクを増加させる。スタッフの規模の外部監査のあとで、世界基金は2004年末までに118人であった任期制雇用から、2005年から最大で150人にスタッフ数を増加させるべきだという助言に従っている。スタッフ規模の監査によると、世界基金は200人を超えないスタッフ数で2007年までに予測された量の助成を効率的に運営することができる。

助成の運営

助成運営の速度

61. 上で述べたように、第一期、第二期募集では世界基金がその運営手順とガイドラインの整備の過程であったので、承認と契約が同時に行われた。この並行的なプロセスの結果の一つは、主要な資金供与者の財務能力と調達能力を評価するために必要な過程が完了する前に初期の助成契約がなされたことであった。その欠点が発見されてから、助成の実施はしばしば遅れ、多くの助成活動が始まる前に矯正しなければならなかつ

た。もう一つの結果は、初期の助成が資金提供プログラムの中心的活動を測定するターゲットのない状態で(代わりに中心的な活動とは関係のない指標を測定するターゲットを含んだ状態で)契約されたことである。

62. 第三期募集から、世界基金の事務局は特に助成契約の品質の向上に注意を払って運営されていた。そして、今では全ての助成がその助成の活動範囲を示すような明確なターゲット—言い換えれば人々がサービスを受けることができる数を、援助される拠点数、サービス実施地域と指定された地域で訓練された人の数を反映したターゲット—を持つことを保証するパートナーと仕事をしている。また、現在事務局は助成契約前の待機状態の数を減少させるため、助成が契約される前に全ての資金受入責任機関(PR)の評価が完了していることを要求している。これによってより速く支払いを行うことができるだろう。最後に、将来の募集のため、案件申請がより利用しやすくなるように、案件申請のフォーマットは技術審査パネル(TRP)の監査を案件申請の中に添付することを必要とし、全ての重要な情報が含まれていることを事前に保証できるように改善してきた。

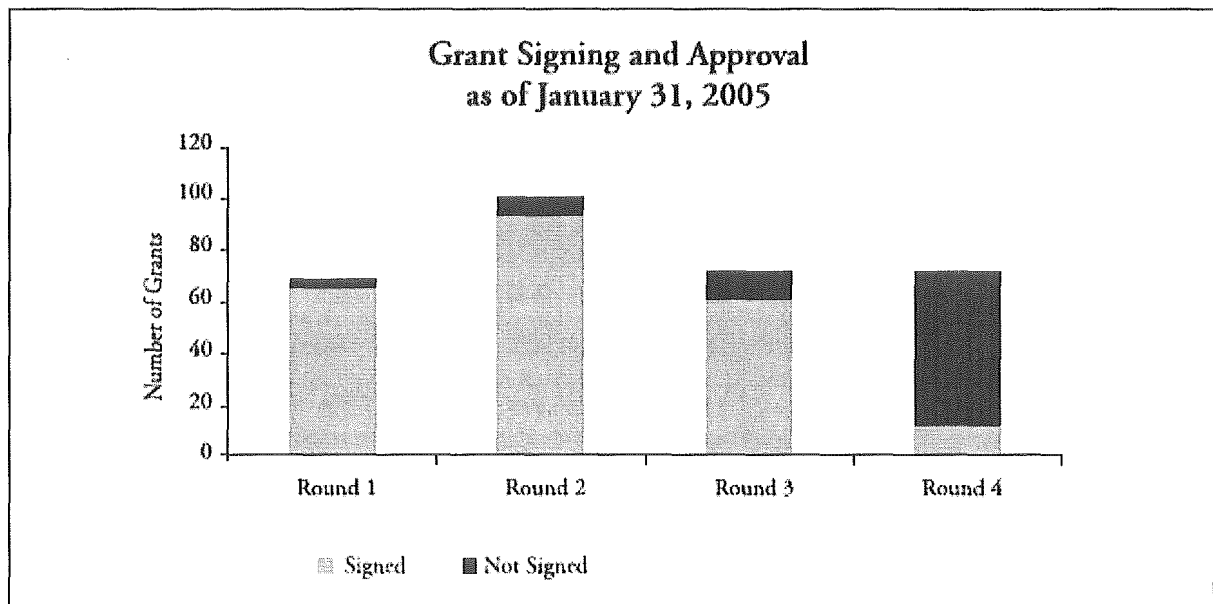


図 11: 理事会に承認された全ての助成のうち、助成契約をおこなった割合

上部: 「助成の契約と承認 2005年1月31日現在」

横軸: 助成の数

横軸、左から順に: 第一期、第二期、第三期、第四期

肌色: 契約 赤: 契約不履行

63. 2005年現在、世界基金は合計69件の第一期募集の案件承認のうち67件の助成契約を結んだ。1件の助成(朝鮮民主主義人民共和国に対する)は取り消しとなり、ジンバブエへの助成は折衝中であった。第二次募集では合計100件の承認のうち、97件の助成契約が結ばれた(3件の未契約は現在折衝中である)。2月前半現在で、第三期募集の合計71件の承認のうち、69件の助成契約が結ばれた。第三期募集の助成の残りについて、イランへの助成と同様に、朝鮮民主主義人民共和国の助成は取り消され、多国間への助成とイエメンへの助成は協議が進行中である。第四期募集は2004年6月末に承認され、2月前半現在、合計72件の承認のうち、20件の助成契約が結ばれた。第四期募集の残りの助成契約は来月中に急速に増えるだろう(第三期募集の100%、第四期募集の80%の案件が2005年3月末までに契約される予定)。

助成金の支払い

64. 世界基金の助成受領者への資金の支払率は2004年に加速し、18億9000万ドルの合計助成契約締結のうち、2005年1月31日までに8億7300万ドルの累積総支払額に達した。その資金の支払いについて、52.4%はサハラ以南アフリカに対して支払われ、17.3%が東アジアと太平洋

諸国、13.3%が中南米とカリブ、9%が東ヨーロッパと中央アジア、3.5%が北アフリカと中東、4%が南アジアであった。

65. 支払いが順調に行われているかどうかを評価するため、世界基金は助成契約が結ばれてから経過した時間に対する支払額の比率と、契約した基金の合計金額に対する支払額の比率を比べている。この技術を用いることで、全体から見た各助成募集と助成契約リストの支払い記録が下図12のように表わされる。

66. 2005年1月31日までの合計支払額について、80%が第一期、第二期募集案件に対して、16%が第三期募集、わずか2%が第四期募集案件に対して支払われた。第三期、第四期募集案件はまだ新しく、初めの受領者に対する支払いが平均の大きい値を示したので、助成の時間経過を超えて支払われたことを意味する。時間とともに、時間経過の割合により近似した値となる。2005年から第三期と第四期募集案件では増加した助成提供額を受領し、そのため、さらにいっそう大きく結果に現れている。概して、助成支払いは助成契約の時間経過におおよそ比例している。

各募集期間別の支払額(単位は百万ドル 2005年1月20日現在)						
募集期間	承認	2年の承認 ¹	2年の契約 ²	2年の支払い ³	2年の総支払額の平均 ⁴	平均経過時間 ⁴
第一期	02年2月	558	545	372	70%	80.6%
第二期	03年6月	859	794	479	48%	52.3%
第三期	03年8月	639	477	141	33%	20.6%
第四期	04年6月	1039	70	19	28%	5.6%
合計		3094	1884	871	49%	48.9%

¹ 理事会で承認された申請案件(5年期間、最初の承認は1~2年目に適用)
² 事務局によって助成契約を結ばれる。2年間の助成契約
³ 受領者へ渡った金額。効果に基づいて徐々に支払いが増加
⁴ 1件以上の支払いを受けた助成に対してのみに基づいた合計期間に対する割合。

図12: 各助成募集別の承認、契約、支払い

現在活動中の効果に基づいた基金

67. 助成契約の締結から経過した時間と支払い率を比較することは、助成支払いが全体的に順調かどうかを評価するための重要な方法である一方で、どのような単一助成の支払い率に決しても一定の値を取るわけではない。支払い比は下記のような数多くの理由によって変化する。

- ・いくつかの助成では資金消費能力が制限されることによって、他よりもより遅い資金吸収である。多くは助成の時間の経過と共にその消費能力は増大し、パートナー数や二次受領者の基盤の広さが資金吸収能力の増加をもたらす。

- ・助成契約後の初めての支払いは、受領者の他の契約締結や、初期投資などの用途での使用が可能ないように、その後の支払いと比べて明らかに大きくなることが多い。

- ・証明できるプログラムの効果—資金受入責任機関(PR)の一部で進行が停止、あるいはPRが二次受領者への支払いの一部が滞っていると、受領者への資金の提供は緩やかなものとなる

- ・支払い請求の総額が支払い期間中の計画された活動の種類によって変化する—例えば、薬剤調達はスタッフの訓練よりも資金を必要とする。

68. 政府機関のPRが平均79%の支払い率であるのに対して、非政府組織のPRは予測される支払いのうち平均91%の支払い率で、基金吸収を上手に実行してきたと言える。

標準以下の助成に対する助成運営

69. 標準以下の助成の内部調査によって、その遅れや緩やかな進行が3つの要因によって引き起こされることが示されている。初めの要因は非常に大きいプログラムを実行するための能力が欠如していることである。これはしばしば国内の経験が乏しい状態で新しいサービスの拡充を始めるという要因が挙げられる。こういった場合、世界基金の役割は、欠点やボトルネックとなるものを見つけ出す手助けを行い、広い範囲からパートナーの支援を行う。最も多いボトルネックの事例は物資調達の遅れである。多くの受領者が時間を消費する物資調達の慣習を持っており、薬剤や他の物資が届くのを待っている間、活動は停止する助成もある。こういったほとんどの助成で

は一度供給物が届くと活動の速度は高まり、ほとんどの場合、初めの2年の助成期間の前に計画されたターゲットに到達すると思われる。

70. いくつかのケースで、その原因は世界基金の手順、あるいは遅れの原因となる、手順の明瞭さの欠如であった。特に、世界基金の助成が、現存する援助者(セクター・ワイド・アプローチ(SWAs)や調達協定など)の調和努力と統合される過程での手順の明瞭さが不足していた。世界基金の事務局は、様々なパートナーシップや基金の状況に柔軟に運営できるように、助成の手順を援助者の調和努力に統合するように運営上のモニタリングガイドラインを修正してきた。初めて遅れが発生した後にそういった能率化が起こったのはモザンビークであり、そこでは現在、世界基金は国の保健医療セクターの調達協定の一部となっている。

71. 最後の要因として、実施における遅れは、政策指導者や上層部が頻繁に変わることから、国の団体同士の争いまで幅広い受益国の様々な内部問題に起因するものである。こういった状況の中では世界基金やそのパートナーは遅れの原因を見つけることや、彼らが理解できるような解決策を提供すること以外に何もできない。

72. 世界基金が発足して初めの18ヶ月にわたって、各助成プログラムの管理者はその各助成に関係した全ての問題に対処してきた。いくつかの助成の実施で他よりももっと大きな障害に直面したとき、各プログラムの管理者は、いくつかの助成ではそのほとんどの時間を問題解決に費やしていることをすぐに見つけ、彼のほとんどない時間をその助成を支援するために充てた。2004年3月、世界基金は「運営上のパートナーと国の援助」という支援部署をつくり、その任務は進行の遅い助成を支援することであり、各助成プログラムの管理者をより高い効果を持つ助成を支援する通常業務に戻させることである。このプロセスは、事務局が本来の仕事と同時に、問題が非常に重大な問題に発展する前に、そして世界基金のリスクを回避するより良い運営を行うために、より多くの資源をその特定の課題に投入することで助成受領者を支援することを可能にした。